

環境科学センターにおける環境学習事業

- 市民による環境保全活動の技術支援を目指して -

情報交流部 野崎隆夫、生駒 進、福田克彦

1 はじめに

近年、都市・生活型公害問題や地球環境問題が深刻化するなか、環境と人間との関わりについて学び、良好な環境の保全と持続可能な開発を目指すために環境学習の重要性がますます高まっている。産業型公害に対処する試験研究機関として発足した旧神奈川県公害センターは、平成3年に環境科学センターとして再編整備する際に、公設の試験研究機関としては全国に先駆けて環境学習施設を整備し環境学習部門を設けた。そして、パソコン感覚で環境問題について学べる展示コーナーや種々の講座を開講するための環境学習室（視聴覚室）を中心に、小中学生を中心とした環境問題に関心の薄い層の意識向上を図るとともに、地域における環境学習や環境保全活動の指導者となる環境学習リーダーの育成に取り組み成果を上げてきた¹⁾。

その後、県内では環境学習リーダーをはじめ環境学習や環境保全活動を実践する市民が増え、また環境学習関連の講座を行う市町村も増えてきた。そこで、平成13年度後半の学習施設再整備において展示コーナーを廃止し、より実践的な環境学習の場として実習室等を設け、「環境実践者の科学的支援」を新たなテーマとして環境学習事業を展開することとなった。

ここでは、まだ3年に満たない期間ではあるが、この間の環境学習事業の内容を紹介し、今後の展望についても述べる。

2 環境学習施設

環境学習施設は次の施設からなり(図1)、年末年始以外休日も開館している。

活動支援スペース

活動のための準備や打合せを行う場所としての活動支援コーナーをはじめ、インターネットコーナー、ビデオコーナー、図書コーナーがある。予約なしで自由に利用できるオープンスペースである。

環境学習室

映像装置を使った視聴覚教室で、環境問題に関するビデオを見たり、学習会を開くことができる。2週間前までに予約することにより利用できる。

実習室

各種の分析機器が備えられ、河川の水質調査、生物調査や大気の測定などの実験を行うことができ、必要に応じて指導者をつけることができる。2週間前までに予約することにより利用できる。



図1 環境学習施設の平面図

3 主な主催講座と教室

環境実践者支援講座

すでに環境活動に関わっている県民を主な対象として、環境調査コース、環境教育支援コース、地球温暖化防止コース、循環型社会コースなどの実践的な講座を開催している。開催するコースによって、年齢構成は異なるが、20代から70代まで幅広い応募者がある。

環境実践者養成講座

平成5年度から平成12年度にかけて実施した「環境学習リーダー養成講座」を引き継ぐ講座で、地域で環境学習リーダーとして活動できる人材の養成をめざし開催している。平成13年度からの受講者の年代別内訳は図2に示したとおりである。

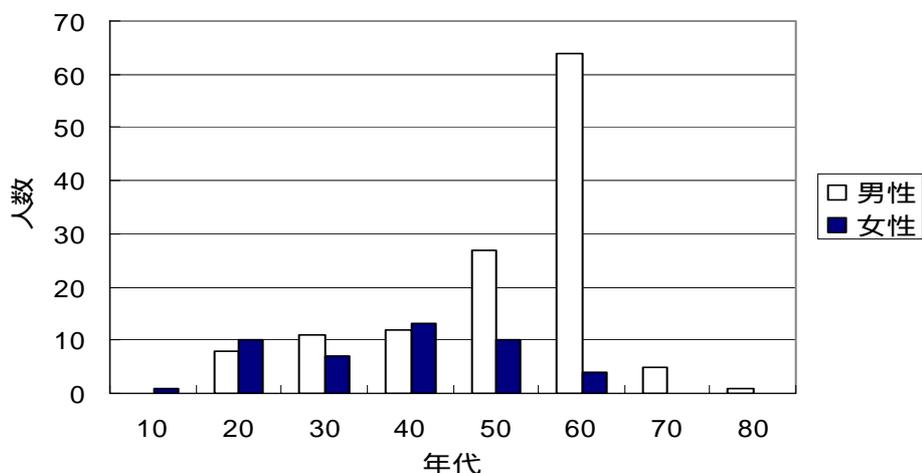


図2 環境実践養成講座応募者の年代別内訳（平成13～16年度）

子ども環境体験教室

実験、工作、観察など環境に関わる体験を通して、子どもに環境問題を考える機会を与える教室で、夏休みを中心に開催している。

環境自由研究支援教室

自ら考えたテーマを持って環境問題に関する自由研究に取り組む小中学生を対象に、個別に実験や観察の技法について指導を行う教室で、夏休みに開催している。

4 実習室の利用状況

4.1 利用回数

実習室は、地域の環境保全活動を行っているグループによって測定や分析に利用されるほか、小・中・高校の総合学習や子どもたちを対象にした環境学習活動の場として利用され、平成14年6月に利用開始して以来月平均利用回数は約4回である。

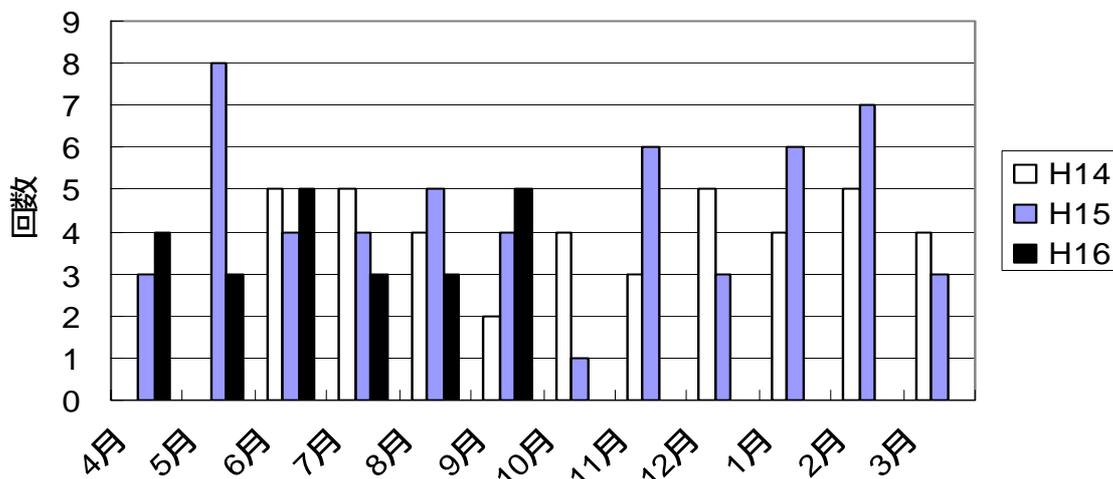


図3 実習室の年度別・月別利用回数

4.2 利用内容

表1に、平成14・15年度に実習室を利用したグループの目的別の利用回数を示した。両年度ともに環境調査を目的として利用した回数が多く、ほぼ全体の半数を占めた。次いで環境学習目的で、全体の約3割であった。

表1 実習室の目的別利用回数

利用目的	H14	H15
環境調査	20	26
環境学習	12	17
総合学習/自由研究	6	4
その他の実験	3	7
合計	41	54

なお、環境調査による利用では、河川水の pH、COD、全窒素、全リン、導電率が、大気では NO₂ の分析が行われ、水域に生息する底生動物や藻類などの調査にも利用された。市民が分析機器や顕微鏡を自由に利用できる類似施設は県内になく、身近な環境を自ら調べたいという市民に活用されている。また、環境学習目的では、ケナフや牛乳パックによる紙漉やソーラークッキングなど多彩な内容で利用されているが、実験台を備え、ガスや水道が使える実習室は便利と思われる。

5 市民による環境保全活動の技術支援を目指して

狭い県土に多くの人口と産業を抱える神奈川県では、さまざまな環境問題が生じているが、それを解決するために地域でいろいろな活動に参加する市民も多い。今、そのような市民に対して、環境科学センターの環境学習は何ができるであろうか？市町村や NPO などにより各地で環境学習に関するさまざまな取り組みが始まっている。限られた人員と予算で、かつ、必ずしも便利とはいえない立地条件で、環境科学センターだからこそできる環境学習とは何であろうか？

当センターは、良好な環境の確保のために環境調査や環境保全のための試験研究に長年取り組んできた。その知識と技術は、身近な川や里山などの環境を守るために、またはよみがえらせるために活動している市民の役にも立つはずである。市民だけではできない測定や分析などの活動に、場所と技術の面で支援できる実習室を有効に活用したいと考えている。市民が活動の対象とする水や大気や生物を自ら調査し、その環境について科学的に考えることは、保全活動をより良く進めるだけでなく、参加する市民や子どもたちにとって重要な環境学習の場にもなるとと思われる。市民が主体的に考え行動する環境保全活動を、科学的に技術支援するための場をより広げていきたい。

6 おわりに

環境科学センターの環境学習施設については、ホームページ「地球環境学習ひろば」<<http://www.k-erc.pref.kanagawa.jp/learning/toppage.htm>>で、公開している。さまざまな、環境活動に利用していただきたい。

引用文献

- 1) 本多久男ほか (1999) 神奈川県環境科学センターにおける環境学習事業について. 全国公害研会誌、24 巻、p111 - 115.